

## 生物多様性情報基盤の確立にむけて：本格運用に移行する GBIFデータポータルとその将来像

伊藤元己 (東京大学大学院総合文化研究科,  
GBIF日本ナショナルノード・ノードマネージャー)

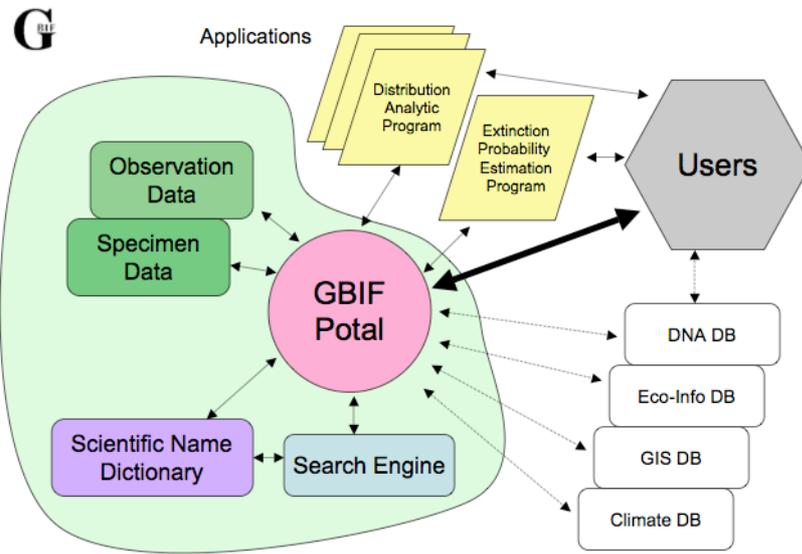
### Toward establishment of biodiversity information infrastructure: GBIF's data portal moving for full-operation and the vision for next step

Motomi Ito (The University of Tokyo; GBIF Japan National Node, Node-Manager)

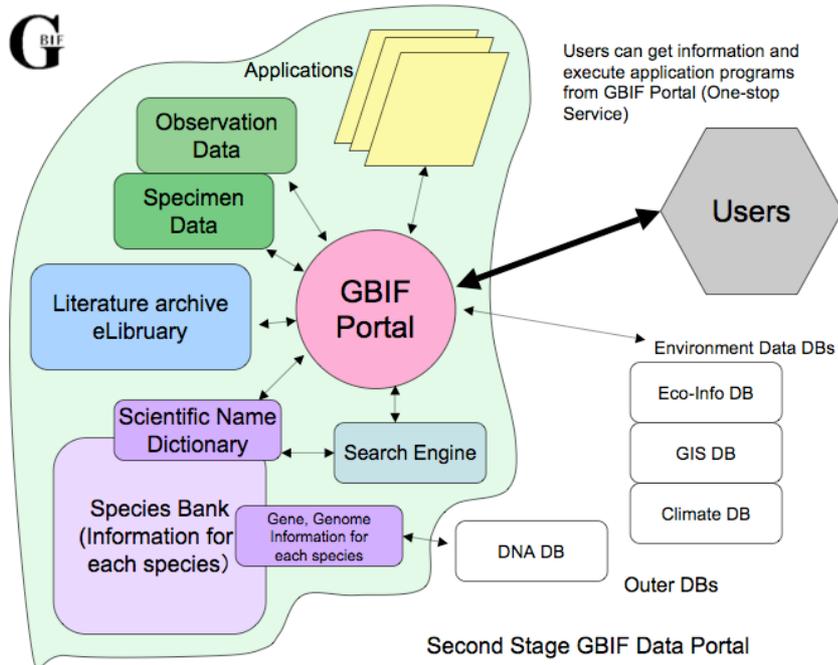
Global Biodiversity Information Facility (GBIF)の活動開始から5年が経とうとしている。その間、数多くのワークプログラムが実施されてきたが、この最初の5年間はおもに、学名のカタログ化と一次データ、すなわち標本や観察記録データの電子化に注力してきた。その結果のマイルストーンとして、学名のカタログ化では、2007年度版のCatalog of Life では**100万件を超す学名**が収録される予定である。また、標本・観察記録の一次データのGBIFデータ・ポータルからの供給はこの夏に**1億件を突破**した。このような基本情報の拡充を受け、来年度からGBIFデータ・ポータルも試用段階から本格運用に移行する。それにともない、データ・ポータルの機能も一新、拡充される予定である。新ポータルは、1) 複雑な検索のサポート、2) 地理情報システムとの連携、3) 各国のノード用にカスタマイズ機能を提供など、よりフレンドリなユーザーインターフェースが採用される予定である。また、データのダウンロードにも対応していて、各種アプリケーションでの利用もより容易になる。

GBIFは来年度から第2期に入り、従来の活動に加え新たなワークプログラム(モジュール) が加わる。そのなかでも生物の統合種情報を提供するスピーシーズ・バンクはこれから重要になると思われる。このスピーシーズ・バンクでは、学名情報、標本情報だけでなく、記載から遺伝子情報まで多岐にわたる情報を標準化し、統合して提供しようとするものである。また、DNA Barcodeなど、生物多様性情報活用のために利用可能な新たなツールも整備されてきており、第2期GBIFの目標である2011年に**180万種**(全種の95%) のカタログ、**10億件のデータ**が達成されれば、生物多様性研究を行う際の基盤として不可欠のものになると予想される。

本公演では、GBIF日本ノードの概要と、GBIFポータルからの生物多様性情報の実際の利用方法を紹介する。また、GBIFのデータのアプリケーション・プログラムでの利用例を紹介しながら、さまざま分野での生物多様性情報の活用の可能性について議論を行う。さらに今後GBIFの向かう方向とその将来像について考えてゆきたい。



First Stage GBIF Data Portal



Second Stage GBIF Data Portal

Figures. Schematic illustrations of the first stage GBIF portal (Upper), and the second stage GBIF portal (Lower).